【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成26年1月23日(2014.1.23)

【公開番号】特開2012-115680(P2012-115680A)
【公開日】平成24年6月21日(2012.6.21)
【年通号数】公開・登録公報2012-024
【出願番号】特願2012-2950(P2012-2950)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｈ　3/16　(2006.01)
Ａ６３Ｈ　3/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｈ　3/16
Ａ６３Ｈ　3/00　Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成25年11月28日(2013.11.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
玩具本体と、
玩具本体に設けられた、第１の開閉部材と、第２の開閉部材と、前記第１の開閉部材を開状態へと付勢する第１の付勢手段と、前記第２の開閉部材を開状態へと付勢する第２の付勢手段と、前記第１の付勢手段による付勢に抗して前記第１の開閉部材を閉状態に保持する第１の保持手段と、前記第２の付勢手段による付勢に抗して前記第２の開閉部材を閉状態に保持する第２の保持手段と、
操作部と、
前記操作部に対する操作に応じて前記第１の保持手段による保持および第２の保持手段による保持を解除する解除手段と、を有し、
前記解除手段は、前記操作部において第１の操作を行ったときは前記第１の保持手段による保持と前記第２の保持手段による保持とを異なる時期に解除し、
第２の操作を行ったときは前記第１の保持手段による保持および第２の保持手段による保持を略同時に解除可能である、ことを特徴とする玩具。
【請求項２】
前記第１の開閉部材は第１の被係合部を有し、かつ、前記第１の保持手段は第１の係合部を有し、
前記第１の保持手段は、前記第１の係合部が前記第１の開閉部材の第１の被係合部と係合することにより前記第１の開閉部材を閉状態に保持可能であり、
前記第２の開閉部材は第２の被係合部を有し、かつ、前記第２の保持手段は第２の係合部を有し、
前記第２の保持手段は、前記第２の係合部が前記第２の開閉部材の第２の被係合部と係合することにより前記第２の開閉部材を閉状態に保持可能であることを特徴する請求項１記載の玩具。
【請求項３】
前記第１の保持手段の第１の係合部を、前記第１の開閉部材の第１の被係合部との係合が解除される方向へ移動させる第１の動作部材と、

前記第２の保持手段の第２の係合部を、前記第２の開閉部材の第２の被係合部との係合が解除される方向へ移動させる第２の動作部材と、
が設けられており、
前記操作部の操作によって前記第１の動作部材が前記玩具本体に対して初期位置から動作位置に移動することにより前記第１の係合部が移動し、
前記操作部の操作によって前記第２の動作部材が前記玩具本体に対して初期位置から動作位置に移動することにより前記第２の係合部が移動することを特徴とする請求項２に記載の玩具。
【請求項４】
前記第１の操作は前記操作部を第１の方向へと回転させる操作であり、前記第２の操作は前記第１の方向と逆の第２の方向へと回転させる操作であることを特徴とする請求項３記載の玩具。
【請求項５】
前記解除手段は、前記操作部の回転に伴って回転するカム部材を有し、当該カム部材は前記第１の動作部材および第２の動作部材と当接しており、
前記第１の動作部材を初期位置から動作位置へと動かす第１カム部と、第２の動作部材を初期位置から動作位置へと動かす第２カム部とが設けられており、
前記第１カム部と前記第２カム部との前記カム部材上の距離は、前記第１の動作部材が前記カム部材に当接している第１当接位置と前記第２の動作部材が前記カム部材に当接している第２当接位置の前記カム部材上の距離とは異なることを特徴とする請求項４記載の玩具。
【請求項６】
前記カム部材には、前記第１の動作部材を初期位置から動作位置へと動かす第３カム部と、前記第２の動作部材を初期位置から動作位置へと動かす第４カム部とが設けられており、
前記第３カム部と前記第４カム部との前記カム部材上の距離は、前記第１の動作部材が前記カム部材に当接している第１当接位置と前記第２の動作部材が前記カム部材に当接している第２当接位置の前記カム部材上の距離に等しいことを特徴とする請求項５記載の玩具。
【請求項７】
前記第１の動作部材および前記第２の動作部材がいずれも前記初期位置にある状態から前記操作部を前記第１の方向に回転したとき、前記第１カム部は前記第３カム部が前記第１の動作部材を動かすより前に前記第１の動作部材を動かし、かつ、前記第２カム部は前記第４カム部が前記第２の動作部材を動かすより前に前記第２の動作部材を動かすことを特徴とする請求項６記載の玩具。
【請求項８】
前記第１の動作部材および前記第２の動作部材がいずれも前記初期位置にある状態から前記操作部を前記第２の方向に回転したとき、前記第３カム部は前記第１カム部が前記第１の動作部材を動かすより前に前記第１の動作部材を動かし、かつ、前記第４カム部は前記第２カム部が前記第２の動作部材を動かすより前に前記第２の動作部材を動かし、かつ、前記第３カム部と前記第４カム部は前記第１の動作部材と前記第２の動作部材を略同時に動かすことを特徴とする請求項７記載の玩具。
【請求項９】
前記第１の操作は前記操作部を第１の方向へ動かす操作であり、前記第２の操作は前記第1の方向と逆の方向へ動かす操作であることを特徴とする請求項１乃至３のいずれか１項記載の玩具。
【請求項１０】
前記第１の操作は前記操作部を第１の方向へと回転させる操作であり、前記第２の操作は前記第１の方向と逆の方向へと回転させる操作であることを特徴とする請求項１または２のいずれか１項記載の玩具。

【請求項１１】
前記玩具本体は、前記操作部が設けられた中心部材と、当該中心部材と接続可能な周辺部材とからなり、少なくとも前記第１の開閉部材は前記周辺部材に設けられていることを特徴とする請求項３記載の玩具。
【請求項１２】
前記第１の動作部材は、前記中心部材側に存在する中心側部分と、前記周辺部材側に存在する周辺側部分とからなり、当該中心側部分と周辺側部分は前記中心部材と前記周辺部材が接続されたとき連動可能となることを特徴とする請求項１１記載の玩具。
【請求項１３】
前記中心側部分は、前記中心部材と前記周辺部材が接続されたとき前記周辺側部分と当接することにより、前記周辺側部分と連動可能となることを特徴とする請求項１２記載の玩具。
【請求項１４】
前記玩具本体は胴体部と肢部を有する人形または動物を模した形状に形成されており、前記中心部材は前記胴体部を形成しており、前記周辺部材は前記肢部を形成していることを特徴とする請求項１１乃至１３のいずれか１項に記載の玩具。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明の玩具は、玩具本体と、玩具本体に設けられた、第１の開閉部材と、第２の開閉部材と、前記第１の開閉部材を開状態へと付勢する第１の付勢手段と、前記第２の開閉部材を開状態へと付勢する第２の付勢手段と、前記第１の付勢手段による付勢に抗して前記第１の開閉部材を閉状態に保持する第１の保持手段と、前記第２の付勢手段による付勢に抗して前記第２の開閉部材を閉状態に保持する第２の保持手段と、操作部と、前記操作部に対する操作に応じて前記第１の保持手段による保持および第２の保持手段による保持を解除する解除手段と、を有し、前記解除手段は、前記操作部において第１の操作を行ったときは前記第１の保持手段による保持と前記第２の保持手段による保持とを異なる時期に解除し、第２の操作を行ったときは前記第１の保持手段による保持および第２の保持手段による保持を略同時に解除可能である構成を有している。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
また、本発明の玩具は、前記第１の開閉部材は第１の被係合部を有し、かつ、前記第１の保持手段は第１の係合部を有し、前記第１の保持手段は、前記第１の係合部が前記第１の開閉部材の第１の被係合部と係合することにより前記第１の開閉部材を閉状態に保持可能であり、前記第２の開閉部材は第２の被係合部を有し、かつ、前記第２の保持手段は第２の係合部を有し、前記第２の保持手段は、前記第２の係合部が前記第２の開閉部材の第２の被係合部と係合することにより前記第２の開閉部材を閉状態に保持可能である構成としても良い。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
また、本発明の玩具は、前記第１の保持手段の第１の係合部を、前記第１の開閉部材の第１の被係合部との係合が解除される方向へ移動させる第１の動作部材と、前記第２の保持手段の第２の係合部を、前記第２の開閉部材の第２の被係合部との係合が解除される方向へ移動させる第２の動作部材と、が設けられており、前記操作部の操作によって前記第１の動作部材が前記玩具本体に対して初期位置から動作位置に移動することにより前記第１の係合部が移動し、前記操作部の操作によって前記第２の動作部材が前記玩具本体に対して初期位置から動作位置に移動することにより前記第２の係合部が移動する構成としても良い。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１３】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
また、本発明の玩具は、前記玩具本体は、前記操作部が設けられた中心部材と、当該中心部材と接続可能な周辺部材とからなり、少なくとも前記第１の開閉部材は前記周辺部材に設けられている構成としても良い。
【手続補正１４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
さらに、本発明の玩具は、前記玩具本体は胴体部と肢部を有する人形または動物を模した形状に形成されており、前記中心部材は前記胴体部を形成しており、前記周辺部材は前記肢部を形成する構成としても良い。